

第2回協議会だより 《西方部》



令和6年10月10日（木）15:00～16:40 郡山市役所 正庁

【実践発表】 鉄道弘済会郡山保育所

遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～



鉄道弘済会郡山保育所の保育理念は「一人ひとりの子どもを大切に、保護者や地域社会から信頼され、選ばれる保育所を目指す」です。今回の発表は、毎日の保育活動と行事の取組みについて、写真や動画で紹介しました。子どもたちは意見を出し合い、主体的に遊びを展開しており、給食や午睡時の準備等も積極的に行っています。また、所内の子と兄弟のように関わっています。これらの様子から、日々の保育を通して、子どもたちは、生きる力の基礎となる知識や思考力、学びに向かう姿勢などが自然と育まれていることが分かりました。行事については、これまでを振り返り、児童や保護者にとって、より良い経験や思い出となるよう内容を見直しました。例えば、誕生会は一斉に行うのではなく、子の誕生日に保護者が「一日保育士体験」を行って、共にお祝いしています。一緒に過ごすことで子の成長を実感し、保育業務への理解も深まったとのこと。運動会等の行事は、皆で話し合い主体的に取り組みました。（上記写真）実践事例から、日頃の先生方の関わりや環境設定が、自己肯定感や自己有用感を高めていることを学びました。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 鉄道弘済会郡山保育所の発表について

- ・年長児が予想以上にできることが良く分かりました。話し合いをして自分たちのやりたいことが行事に生かされている姿が立派でした。このような姿を踏まえて、小学校で教育していかなければならないと思います。
- ・コロナ禍以降行事がままならなかったが、保護者や地域とともに、様々な活動をする中で、社会生活との関わりが育まれると思います。

☆ 遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～

- ・幼稚園・保育所（園）と小学校が、今まで以上に連携を図り、子どもたちの成長を切れ目なく支えていくことが大事だと思います。

《参加者からのアンケートから》

- ・子どもたち主体の活動が行えると、やる気や自己有用感も高く、教師主体の活動とは異なるのだということを改めて考えさせられました。実践してみます！（小学校：参加者）
- ・この「授業と保育の相互参観」に参加する教職員が増えて、自分の実践や指導を振り返り、改善していけば幼保小の連携がさらに深まると思いました。（小学校：参加者）